

第6回 たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会 報告

「エンド・オブ・ライフ期の『食べる』を支える」



2016年3月26日(土)の午後、国立看護大学校(東京都清瀬市)において、たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会が開催されました。病院および訪問看護ステーションから、看護職の方々14名が参加されました。

今回は、摂食・嚥下のケアの基本をあらためて振り返るとともに、患者さんご家族の「食べたい」「食べてもらいたい」思いにどう応えていくか、日々経験している悩みと工夫を共有して、明日への力に繋げることができました。



①交流会代表 挨拶
本交流会のこれまでの経緯と今回のテーマについて、説明がありました。

(救世軍清瀬病院
看護部長 笠原嘉子)



司会
(救世軍清瀬病院
がん性疼痛看護
認定看護師
相良君映)



②『食べる』を支えるケアについてのレクチャー

摂食・嚥下のケアに関する基礎を振り返り、胃瘻や経鼻胃管留置の長期的な影響、食事介助における基本的な留意点などのレクチャーがありました。

また、実際の事例を通して具体的なケアの方向性を考えるためのポイントを話し合いました。

(東京都保健医療公社
多摩北部医療センター
摂食・嚥下障害看護
認定看護師 中川美加様)



半身麻痺のある患者さんの食事介助を行う際の留意点を、デモンストレーションを交えて説明しました



③グループでの話し合いと共有

日々の実践での悩みや考えを話し合いました。

本人の意向、家族の意向、家族の持つ資源、現在の状況をふまえること、そして多職種が効果的に連携するために必要な情報共有、関係性の構築など、具体的に工夫していることを共有しました。

参加者の声

- 和やかな雰囲気の中で参加することができました。食べる事の深い意味について、多様な意見が聴けてとても参考になりました。
- 嚥下障害をもつ患者さんが「安全に食べるための基本姿勢」は、改めて勉強になりました。
- 治療方針やチームのアプローチ次第で患者さんの生活の質が変わることを、再認識しました。
- 最期まで口から食べる事を大切にしつつ、生を全うするご本人とご家族の「食べる」に対する意味や思いを大切にに関わりたいと思いました。

次回もお待ちしております。

2016年7月9日(土) 14:00~ 於 国立看護大学校
テーマについては、アンケートをもとに現在検討中です。
詳細は <http://tama-elc.umin.ne.jp/>にも掲載します。

スタッフ

笠原嘉子・相良君映・大石恵子(救世軍清瀬病院)
河正子(NPO法人緩和ケアサポートグループ)
飯野京子・綿貫成明(国立看護大学校)